

新城市地域公共交通会議

H19. 12. 26設置 (H20. 3. 19改組 : 法定協議会)
 NW計画策定(フィーダー系統) 23年度 H23. 6. 23
 25年度 H24. 6. 6

①協議会が目指す方向性(Plan)

新城市の将来像

市民が^{ひと}つながり ^{みなと}山の^み湊 創造都市

第1次新城市総合計画(山の湊しんしろ 経営戦略プラン)
 (策定:平成20年4月 計画期間:20年度~30年度)

公共交通に関する重点施策

公共交通網の整備と利用向上
 主な事業:公共バスの運行、飯田線の活性化
 目標:公共交通機関等の充実の満足度の向上

新城市地域公共交通総合連携計画

~山の湊 創造都市を支える公共交通づくりに向けて~
 (策定:平成20年2月 期間:20年度~29年度)

基本方針

民間路線バスの撤退や、合併による市域広域化への対応など、これまでの路線維持にとどまることなく、市民にとって満足度の高い新たな公共交通システムの構築を目指す。

★新公共交通システム推進の6つのポイント

運行形態・路線網の検討
 地域の実情に合わせた運行形態の採用と乗り継ぎの円滑化

バス関連施設の整備
 バス停、乗継拠点、運行案内板など、バス関連施設の計画的整備

ニーズの把握と反映
 乗降調査やアンケートによる利用者ニーズの把握と、運行への反映

地域・利用者の参画
 地域住民・利用者が、計画策定や見直しに参画できる仕組みづくり

利用しやすい料金体系
 市営バス料金の統一と、民間バス路線の料金体系の構築

積極的な情報提供
 鉄道及びバス路線に関するパンフレットの作成など、積極的な情報提供

新城市バス路線図



②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

■連携計画に基づく取り組み

○運行形態・路線網の見直し

路線名		これまでの取り組み
鉄道	JR飯田線	
地域 幹線	新豊線	H22. 10一部ルート変更
	田口新城線	
	作手線	H20. 4増便 H22. 10増便・ルート変更(実証運行)
新城 地区	吉川市川線	H22. 4運行回数変更(冬期)
	中宇利線	H22. 4一部ルート変更 H23. 5一部ルート変更
	北部線	H20. 4一部ルート変更 H22. 4一部ルート変更
	西部線(地域内フィーダー路線)	H20. 6新設(実証運行) H21. 4ルート変更・減便(フリー乗降区間設定) H22. 4ダイヤ変更
バス 鳳来 地区	本長篠海老線	
	鳳来寺線	H20. 10廃止(塩瀬線で代替)
	布里田峯線	H20. 10路線延長(西保育園～玖老勢)
	塩瀬線(地域内フィーダー路線)	H20. 10新設(鳳来寺線の代替:実証運行)
	秋葉七滝線	
	長篠山吉田線	
作手 地区	守義線	H20. 4一部廃止(高里～くらがり・増便)
	大和田線	H20. 4廃止(スクールバスへ移行)
	診療所バス	H20. 4廃止
	つくであしがる線(地域内フィーダー路線)	H20. 4新設(実証運行:曜日別運行) H21. 4一部ルート変更(木曜ルート)

○料金体系の見直し

順次、Sバスの運賃を見直し、負担の少ない運賃設定を実施
 H20.4～ 共通回数券(200円、100円)の創設
 布里田峯線、秋葉七滝線、長篠山吉田線の運賃変更(210円→200円)
 H22.4～ 中宇利線、吉川市川線の運賃変更(対キロ→200円)
 H22.10～ 作手線の運賃変更(対キロ→ゾーン制(200円↔400円))
 Sバスと新豊線の運賃の調整(新城富永～市民病院160円、新城富永～千郷小学校190円)
 回数券の設定(160円と190円)

○乗り継ぎ拠点の整備・改修

作手地区 高里バス停の整備
 乗継拠点として、高里バス待合所を建設(平成14年9月)
 鳳来地区 本長篠駅前バスターミナル
 設楽町・新城市の観光マップをバス待合所に掲示(平成24年度)

○地域・利用者の参画

「路線を守り育てる会」の設置

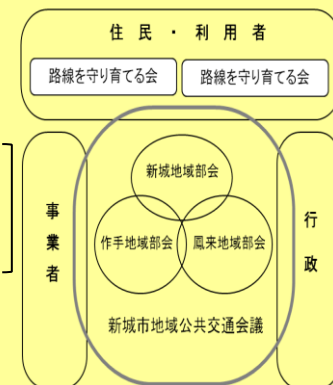
布里田峯線 H20.4.21設置
 つくであしがる線 H20.9.17設置
 西部線 H20.9.25設置
 秋葉七滝線 H24.12.13設置

主な取り組み
 利用状況の確認 地域内のバスのルート
 利用促進策の検討 ダイヤの検討、イベントの実施
 アンケートの実施 かわら版の発行(作手地区)

地域部会の設置
 新城地域部会 H21.7.9設置
 作手地域部会 H21.8.7設置

主な取り組み
 路線を守り育てる会への情報提供 ルート、ダイヤの検討に係る調整
 守り育てる会の活動報告 意見、要望の集約、利用促進に係る意見交換

公共交通システム支援のための組織図



○情報提供・利用促進

ラッピングバスの運行
 小学生の絵画バス(つくであしがる線、北部線、塩瀬線)、もみじまつりPR(新豊線)
 バスマップ、パンフレットの作成
 市内全域のバスマップ(時刻表と路線図)を作成し全戸配布、新城地区のバスマップ
 レットの作成、配布
 利用促進イベント等
 22年度:新城市、北設広域連携イベント「飲んだら乗るな、乗るならバスだ」の実施

■この1年間の取り組み

- 生活交通ネットワーク計画策定調査の実施(北設楽郡・新城市連携)
- 布里田峯線と塩瀬線の乗り継ぎ運賃の設定
- 田峯バス停の新設(豊鉄バス、おでかけ北設との共通化)
- 夏休み子ども50円バスの実施(東三河地区自治体と共同実施)
- 守義線・塩瀬線の車両更新

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

赤字は実績値

青字は見込値

■目標値とその達成状況

運行系統の概要						
	系統名	キロ程	運行日	回数	使用車両	運行事業者
地域間幹線	新豊線	33.3	毎日	11回 (6.5回)	61人乗り	豊鉄バス(株)
	田口新城線	35.6	毎日	9回 (6回)	61人乗り	豊鉄バス(株)
	作手線	22.4	毎日	5回 (3回)	61人乗り1両	豊鉄バス(株)
新城地区	中宇利線	28.1	平日	4回	61人乗り1両	豊鉄バス(株)
	吉川市川線	23.8	平日 土曜	4回	45人乗り1両	豊鉄バス(株)
	北部線	22.1	平日	5回	9人乗り1両	豊鉄タクシー(株)
	西部線(地域内 フィーダー路線)	14.9	平日	5回	9人乗り1両	豊鉄タクシー(株)
鳳来地区	本長篠海老線	12.1	登校日	4回	61人乗り	豊鉄バス(株)
	布里田峯線	17.5	平日 土曜	5回 1.5回	29人乗り1両	新城市
	塩瀬線(地域内 フィーダー路線)	22.3	平日 土曜	6回 1.5回	15人乗り1両	新城市
	秋葉七滝線	33.5	平日 土曜	7回 5回	58人乗り1両	新城市
	長篠山吉田線	37.9	平日 土曜	6回	58人乗り1両	新城市
作手地区	守義線	20.1	平日 土曜	5回	38人乗り1両	新城市
	つくであしがる線 (地域内フィーダー 路線)	曜日別	曜日別	4回	15人乗り1両	新城市

目標値と達成状況					
目標値	利用実績		収支率		利用者の満足度
	本年度実績	前年度実績	目標値	実績値	満足度数
—	—	—	—	—	—
—	60,609	61,185	—	—	0.98
25,268	40,423 39,279	34,819 43,400	—	53.44%	1.13 1.05
40,219	49,554 50,050	50,510 38,659	—	39.58% 31.23%	1.06
8,536	10,108 10,108	11,373 9,130	—	12.15% 11.56%	0.99
9,721	9,280 9,834	10,264 10,305	—	15.74% 17.24%	1.08
4,050	4,161 4,112	4,062 3,855	12.25%	17.56% 11.67%	1.14
—	6,565	5,059	—	—	0.97
6,147	4,468 4,935	5,975 6,819	—	9.66% 16.19%	0.96
5,019	5,287 5,096	5,010 5,054	18.08%	10.00% 8.37%	1.00
16,015	13,161 13,532	13,970 14,809	—	18.48% 21.87%	1.10
23,500	16,767 18,418	20,806 22,211	—	35.24% 45.42%	1.04
6,591	4,190 4,531	5,088 5,526	—	5.15% 12.51%	1.17
1,627	1,620 1,731	1,602 1,476	4.85%	3.91% 4.85%	1.20

※ 満足度数は、0.8~1.2で数値が高いほど、満足度が高い。

運行回数の()内は土日祝日の運行回数

■全体評価

・個別評価の総括

高齢者や小中学生の通学を目的として利用され、概ね、その役割を果たしているが、乗継時の待ち時間の長さや運行ダイヤ、運行回数等への不満も多く、引き続き改善を図っていく必要がある。

・それぞれの系統のネットワークとしての役割

それぞれのバス路線は、幹線系統やJR飯田線駅につなぐネットワークを形成している。

・連携計画に基づく事業やこの1年間の取り組みによる成果等

平成25年4月から、鳳来西部地区を走る2路線の乗継券の創設や隣接の設楽町内へのバス停の新設を行うことができた。新設のバス停は幹線系統のバス停と同じ位置にあり、これまでは約100メートル離れた位置にあったため、乗継の際の負担軽減を図ることができた。

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

■利用実績・アンケート等から得られた課題

多くの路線で小中学生の通学と高齢者の通院・買物を目的として利用されているが、利用者数には大きな変動は見られない状況である。満足度調査の結果では、多くの路線で平均値よりも満足度が高くなっているが、小中学生が通学に利用している布里田峯線、本長篠海老線では、運行回数や運行ダイヤに対する「やや不満」、「不満」という声が多く見受けられ、ダイヤの見直しの検討や乗継の容易化など「路線を守り育てる会」の意見も踏まえながら、その改善に取り組んでいく。

また、各路線に対する満足度は高くなってはいるものの、市民全体にバスに対する理解を深めてもらえるようなPR活動に取り組んでいく。

■広域連携に向けた課題

田口新城線については、平成23年度に設楽町と共同で調査事業を行ったところである。この調査結果を踏まえ、その後、事業者も含めた検討の場を設け、地域公共交通会議として、引き続き、実現に向けての検討を進めていく。

■次のステップに向けた計画策定

平成20年に策定した連携計画における前期事業期間が終了し、中期事業期間となっているが、進めていくべき事業計画が構築できていない状況にあり、具体的な計画を策定する必要が急務となっている。

⑤アピールポイント(特に工夫した点)

■地域公共交通を守るための利用者、住民の参画(地域部会と路線を守る育てる会による活動)

実証運行路線であった西部線、塩瀬線、つくであしがる線については、それぞれの沿線住民による「路線を守り育てる会」が発足している。これまで、運行ルート・ダイヤの検討や「かわら版」の発行などの活動を行ってきた。特に、平成22年度のSバス作手線の運行形態変更時には、作手地域部会で協議した意見を地域公共交通会議にあげることで、地域が必要とした路線の実現に繋がった。平成24年度には新たに「秋葉七滝線を守り育てる会」も発足し、新規バス停設置などの検討を行った。

本市は、中山間地における過疎化の進行が激しく、移動手段を持たない高齢者の足の確保など公共交通に関する諸課題が多く、地域の声を確実に地域公共交通会議に反映させていくためにも、より多くの地域・路線において、「路線を守り育てる会」の発足を図っていきたい。

今後、平成23年度に調査を行った田口新城線の見直しを進めるうえでも、同手法を取り入れながら地域の声を確実に反映していくこととする。